

中 高 合 同

令和 6 年度

教育研究員研究報告書

美 術

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	3
IV	研究構想図	4
V	研究内容	5
1	アンケートによる意識調査	5
2	検証授業	6
(1)	検証授業①	6
(2)	検証授業②	9
(3)	検証授業③	12
VI	研究の成果と課題	16

研究主題

造形的な視点から新しい意味や価値を見だし、 自己の可能性を広げる生徒の育成

I 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領解説美術編（以下「中学校学習指導要領解説」という。）及び高等学校学習指導要領解説芸術編（以下「高等学校学習指導要領解説」という。）の第1章総説には、「一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される」と記されている。

本研究では、令和6年度教育研究員の共通テーマである「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」に向け、本研究員の所属校の指導上の課題を整理した。その結果、共通する課題として、「全ての生徒が主体的に学ぶことができる指導の工夫」や「個々の生徒のよさを引き出すための指導の工夫」、「生徒が創造活動に喜びを感じるための指導の工夫」などが挙げられた。これらの指導の工夫は、生徒が自ら主題を見いだしながら活動したり、個々の思いに合った表し方や表現方法を選択したり、他者と思い进行交流させたりすることにより実現できると考えた。そして、これらの手だてにより、生徒が造形を豊かに捉えたり、新しい価値を見いだしたりするよう促すことで、生徒自身が自己の可能性に気付くことができるのではないかと考えた。

以上のことを踏まえ、美術の創造的な活動や体験を通して、資質・能力を伸ばし、美意識を高め、自らの夢や可能性の世界を広げることができる生徒の育成を目指し、研究主題を「造形的な視点から新しい意味や価値を見だし、自己の可能性を広げる生徒の育成」とした。

なお、本研究において研究主題に用いた用語を、表1のとおり定義することとした。

表1 研究主題に用いた用語の定義

造形的な視点	形や色彩などが感情にもたらす効果や全体のイメージなどで捉える視点のこと
新しい意味や価値	自分なりによさや美しさを感じ、新たに発見や感動をすること
可能性を広げる	豊かな心や人間性を育み、社会や人生の在り方を創造的に考えていくこと

本研究では、研究主題に迫るため、自分の思いを基に表現したり、造形を豊かに捉えたりできるよう、中学校学習指導要領（以下「中学校学習指導要領」という。）及び高等学校学習指導要領（以下「高等学校学習指導要領」という。）に示されている教科等の目標（2）に着目し、研究を構想した。

また、研究の視点として、生徒に身に付けさせたい力として「自ら作品の主題を見いだす力」「創意工夫し、表現方法を追求する力」「感じたこと・考えたことを言語化する力」の3点を設定した。さらに、この3つの力を育むための「動機付け」を教師が意図的に取り入れ、図1のとおり3つの力を相互に働かせるための指導の工夫について研究することとした。

Ⅱ 研究の視点

本研究では、生徒が造形的な視点から新しい意味や価値を見だし、自己の可能性を広げるために必要な力として以下の3つの力を設定するとともに、以下のとおり教師による3つの力を引き出すための「動機付け」を行った。

自ら作品の主題を見いだす力

《主題設定の動機付け》

生徒自らが感じ取ったことや考えたこと、目的や条件を基に強く表したいと思い描ける題材を設定する。本動機付けは、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領のA表現（1）と関連している。

創意工夫し、表現方法を追求する力

《知識・技能の動機付け》

材料・用具などを創意工夫したり、表現方法を選択・試行錯誤したりしながら独創的な表現方法を追求できるようにする。本動機付けは、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領のA表現（2）〔共通事項〕と関連している。

感じたこと・考えたことを言語化する力

《言語活動の動機付け》

表現及び鑑賞の活動を相互に関連させながら言語活動を通して感じたこと・考えたことを整理したり、イメージを広げたりすることができるようにする。本動機付けは、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領のA表現（1）、B鑑賞（1）と関連している。

これらの3つの身に付けさせたい力は、それぞれを独立させ順序立てて育成するのではなく、図1のように相互に関連させながら育成する。教師が3つの動機付けを学習の中で適切に設定し実践することにより、生徒が3つの力を高め、循環的に働かせ、新しい意味や価値を見いだすことができると考えた。この3つの身に付けさせたい力と動機付けの関係等について、図1及び図2に表した。

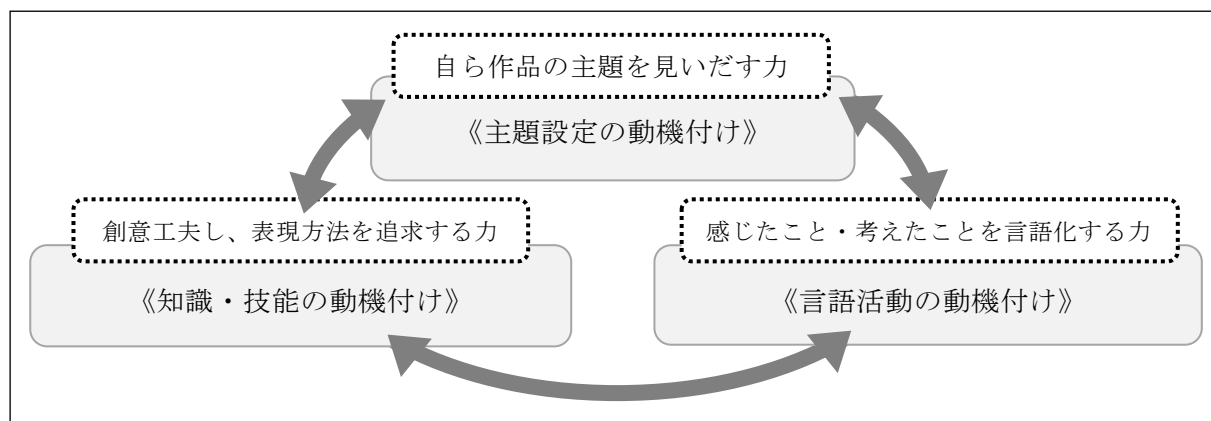


図1 身に付けさせたい力と動機付けの関係

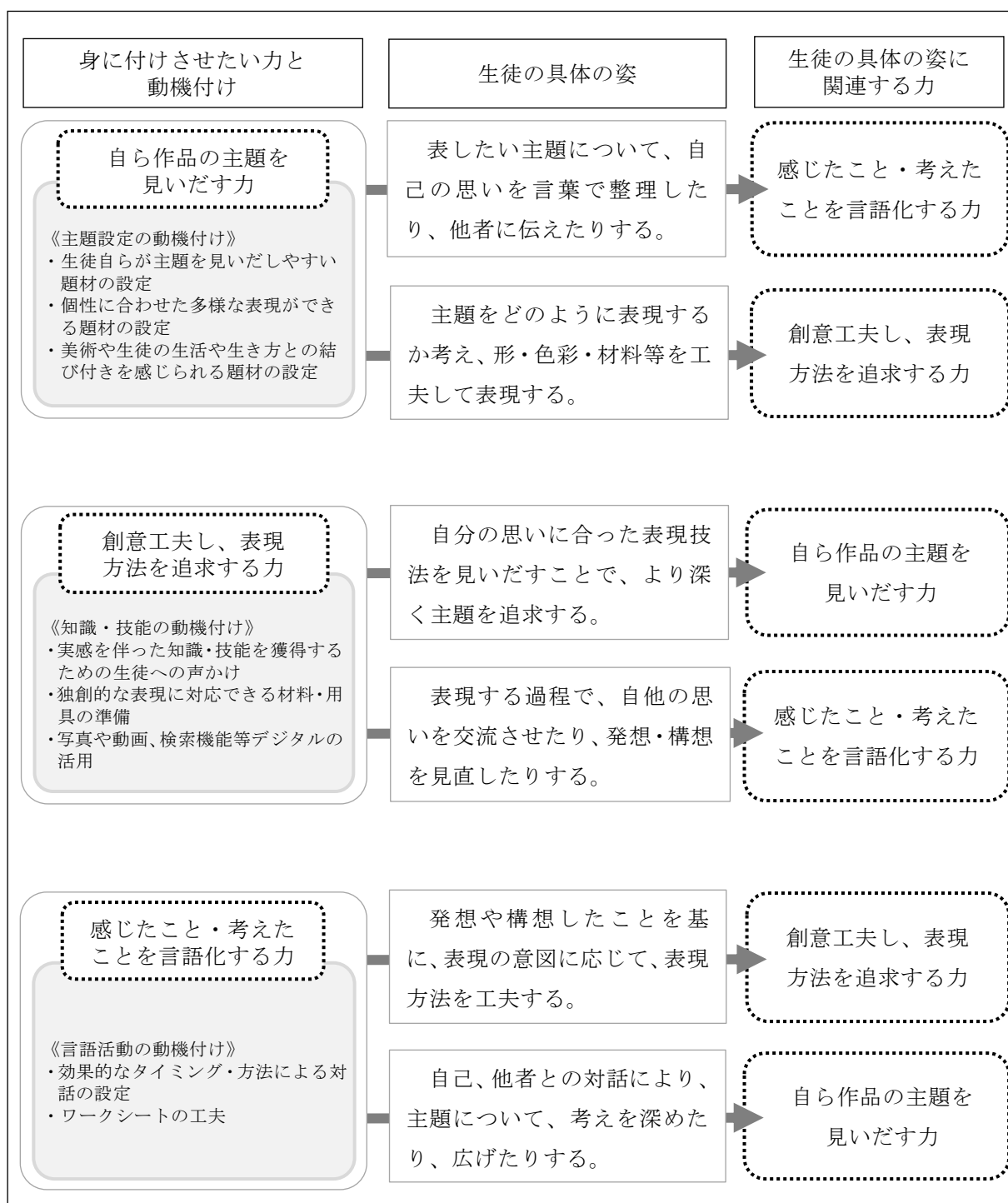


図2 3つの力と動機付け等との結び付き

Ⅲ 研究仮説

「主題設定の動機付け」「知識・技能の動機付け」「言語活動の動機付け」を行うことにより、「自ら作品の主題を見いだす力」「創意工夫し、表現方法を追求する力」「感じたこと・考えたことを言語化する力」の3つの力が高まるとともに、相互に働かせ、造形的な視点から新しい意味や価値を見いだし自己の可能性を広げる生徒を育成することができるだろう。

IV 研究構想図

【共通テーマ】全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現

【学習指導要領 教科の目標（２）「思考力、判断力、表現力等」】 ※高等学校は科目の目標

小学校 図画工作科	中学校 美術科	高等学校 美術Ⅰ
造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

【東京都教育施策大綱】（東京都教育委員会 令和３年３月）

○東京の目指す教育

誰一人取り残さず、すべての子供が将来への希望を持って自ら伸び、育つ教育

○「未来の東京」に生きる子供の姿

自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる

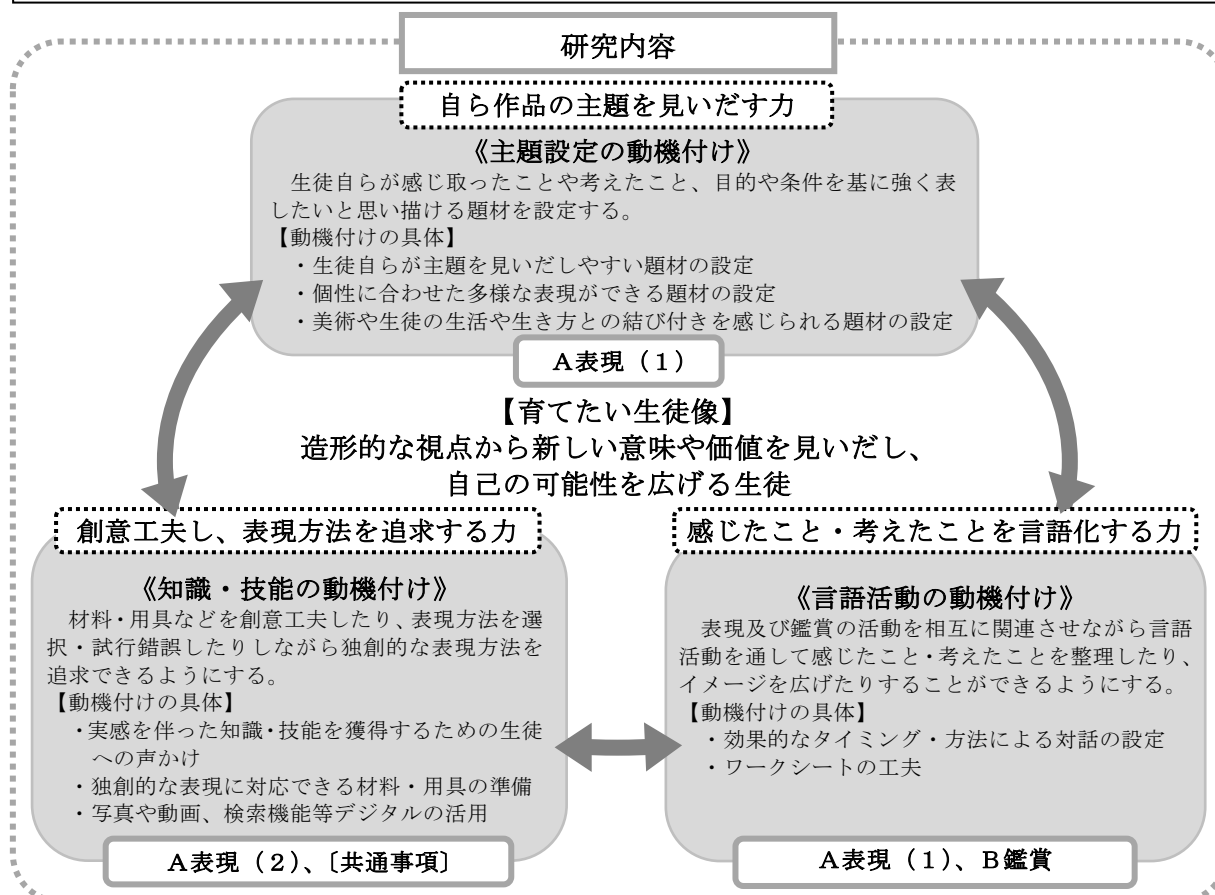
【本研究で実現を目指す授業】

- ・全ての生徒が主体的に学び、個々のよさを引き出すことができる授業
- ・生徒が創造活動の喜びを感じることができる授業
- ・美術の創造的な活動や体験を通して、生徒の美意識を高め、夢や可能性を広げることができる授業

【研究主題】造形的な視点から新しい意味や価値を見だし、自己の可能性を広げる生徒の育成

【研究仮説】

「主題設定の動機付け」「知識・技能の動機付け」「言語活動の動機付け」を行うことにより、「自ら作品の主題を見いだす力」「創意工夫し、表現方法を追求する力」「感じたこと・考えたことを言語化する力」の３つの力が高まるとともに、相互に働かせ、造形的な視点から新しい意味や価値を見だし自己の可能性を広げる生徒を育成することができるだろう。



V 研究内容

1 アンケートによる意識調査

「自ら作品の主題を見いだす力」「創意工夫し、表現方法を追求する力」「感じたこと・考えたことを言語化する力」を育成するため、検証授業前に3つの力に関する生徒の実態を調査した。調査結果は表2である。

表2 3つの力と研究主題に関する意識調査

・調査対象 研究員所属校生徒 1,758人（全8問／4件法）

・選択肢 ①当てはまる ②どちらかといえば当てはまる ③あまり当てはまらない ④当てはまらない

	①	②	③	④
あなたの美術の学習への取組について質問します。	(単位 %)			
●自ら作品の主題を見いだす力に関する質問項目				
1 経験や思いから、「自分なりの表現したいこと」を見付けられている。	38	46	13	3
2 材料や技法を試しながら、「自分なりの表現したいこと」を見付けられている。	38	43	16	3
●創意工夫し、表現方法を追求する力に関する質問項目				
3 表したいイメージに合わせ、形や色、材料や用具などを工夫して組み合わせている。	45	42	11	2
4 よりよく表現するために、試行錯誤したり、構想を練り直したりしている。	46	39	13	2
●感じたこと・考えたことを言語化する力に関する質問項目				
5 自分のアイデアを整理したり、考えをまとめたりする際に、自分の思いや考えを言葉や図で表している。	30	42	22	6
6 自分の表したいことを考えたり、他者と考えを伝え合ったりすることが、自分の表現をよりよくすることにつながっている。	38	42	16	4
●新しい意味や価値を見いだすことに関する質問項目				
7 美術の学習を通して、新たな発見や感動がある。	44	40	12	4
8 美術で学んだことは、これからの生き方につながると思う。	36	42	16	6

本調査から、「5 自分のアイデアを整理したり、考えをまとめたりする際に、自分の思いや考えを言葉や図で表している。」に対し、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒の割合が、合計28%となり、全項目の中で特に高いことが分かった。本結果を踏まえ、日々の授業の中で、教師が効果的なタイミング・方法による対話を設定したり、ワークシートを工夫したりするなどして、言語活動の動機付けを行うことにした。

また、「8 美術で学んだことは、これからの生き方につながると思う」に対し、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答した生徒の割合が合計22%となり、他の質問と比較すると高かった。このことから、美術や生徒の生活や生き方との結び付きを感じられる題材等を取り入れ、美術の力が働いているという実感を伴う題材を提案する必要があると考えた。

検証授業は、これらに留意しながら、3つの力を高め、相互に働かせる場面を設定できるよう計画した。

2 検証授業

本研究における手だての有効性を検証するため、以下の3つの検証授業を実施した。

検証授業①	
○指導の重点	「自ら作品の主題を見いだす力」の育成
○学習の概要	一眼レフカメラを用いて、写真で表現する学習
○動機付けの具体	生徒自身が主題を追求することができるよう、「何を」「どのように」表現するか、生徒に委ねる点を整理し、題材を設定した。一度決めた主題が、表現の途中で変化することも許容し、表現に対する自己の思いを深め、自ら作品の主題を見いだす力を引き出せるようにした。
検証授業②	
○指導の重点	「感じたこと・考えたことを言語化する力」の育成
○学習の概要	紙粘土等の材料を用いて、ジオラマで表現する学習
○動機付けの具体	ワークシートを活用して、表現に対する思いを言語化できるようにした。制作途中に相互鑑賞を設定することにより、自他の表現方法を共有し、自己の表現方法を更に工夫できるよう、「創意工夫し、表現方法を追求する力」とも関連を図った。
検証授業③	
○指導の重点	「創意工夫し、表現方法を追求する力」の育成
○学習の概要	多様な身近材料を用いて、抽象的な絵画に表現する学習
○動機付けの具体	材料・用具を活用し、多様な表現方法を模索することにより、抽象表現の可能性に気付いたり、試行錯誤したりしながら自己の表現の可能性への気づきを広げられるようにした。自ら見いだした主題に合わせて自分なりの表現ができるよう、多様な材料・用具を用意し、思い付いたことをすぐに試すことができる環境づくりを行った。

(1) 検証授業①

ア 授業の概要と研究主題との関連

本題材では、立体作品の制作を通して自分を表現した上で、その作品を撮影し、写真による表現を追求する。身に付けさせたい3つの力の中でも、特に「自ら作品の主題を見いだす力」を伸ばすことを重点とし、主題設定の動機付けとして、主題を見つめ直したり変化させたりすることができる題材を設定することにより、生徒が主題を追求できるよう授業づくりに取り組んだ。

イ 題材名 「レンズの向こうに、もう一人の自分」～写して発見・深まる表現～

A表現(1)ア、(2)ア、B鑑賞(1)ア、[共通事項]

対 象 中学校第2学年

ウ 題材の目標

「知識及び技能」に関する目標

- ・ 形や材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解するとともに、造形的な特徴などを基に全体のイメージとして捉えることを理解する。
- ・ 材料や用具の特性を生かし、意図に応じた表現を追求して創造的に表現する。

「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

- ・ 対象や事象を見つめ感じとったことや考えたこと、想像や感情などの心情を関連付けながら主題を生み出し、単純化や強調、材料の組合せを考え、創造的な構成を工夫し心豊かに表現する構想を練る。

- ・ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げる。

「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現の学習活動に取り組もうとする。
- ・ 美術の創造活動の喜びを味わい、造形的なよさや美しさを感じ取りながら鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

エ 評価規準

ア 知識・技能		イ 思考・判断・表現		ウ 主体的に学習に取り組む態度	
知	形や材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解するとともに、造形的な特徴などを基に全体のイメージとして捉えることを理解している。	発	対象や事象を見つめ感じとったことや考えたこと、想像や感情などの心情を関連付けながら主題を生み出し、単純化や強調、材料の組合せを考え、創造的な構成を工夫し心豊かに表現する構想を練っている。	態 表	美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことなどを基に表現の学習活動に取り組もうとしている。
	材料や用具の特性を生かし、意図に応じた表現を追求して創造的に表現している。		鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を広げている。		態 鑑 美術の創造活動の喜びを味わい、造形的なよさや美しさを感じ取りながら鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

オ 研究主題に迫る手だて

生徒が「自ら作品の主題を見いだす力」を伸ばすために、授業の中で、常に生徒が自由に選択し、造形的な視点に基づいて主題を考えたり、変化させたりしながら表現の可能性を広げることができるよう、以下のとおり手だてを工夫した。

(ア) 立体制作

- ・ 複数の材料を準備し、実際に触れて表現方法を試行錯誤できる環境を整える。
- ・ 作品は何度もつくり直せるようにして、より自分らしい世界を表現できるようにする。

(イ) 写真による表現

- ・ 一眼レフカメラを用いて構図・光・影・ピントなどの技術を理解できるようにする。
- ・ 身に付けた技能を独自の創意工夫をしながら撮影を繰り返すことで、自己の表現の可能性を広げる。

(ウ) ワークシート・相互鑑賞

- ・ ワークシートを一人1台端末で作成し、自分の制作過程を毎時間振り返ることができるようにすることで、自分の主題設定の変化を確認できる環境を整える。
- ・ 相互鑑賞の際、互いの制作過程を共有できるようにすることで他者の表現から刺激を受け、可能性を広げられるようにする。

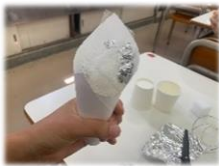
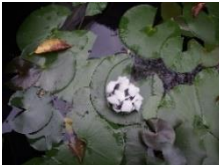
カ 題材の指導計画（全5時間）

時	学習内容・学習活動	研究主題との関連 ◇具体的な手だて
第1時	● 題材の説明と理解 ・ 揺れ動く心情は様々であり、自分でも一言では言い表せない奥深く面白いものである。 ・ 自分を表す立体を制作・撮影し、写真による自己表現を追求する。 ● 立体制作① ・ 材料を工夫しながら自分を表す立体を制作する。	【主題設定の動機付け】 ◇ 参考作品を提示しながら、作品のテーマや造形、写真表現の工夫を説明する。 ◇ 材料を切ったり、組み合わせたりしながら自分らしい表現を試行錯誤し、追求できるようにする。 ◇ 制作の過程から主題を見付けさせる。 ◇ 必要な場合は一人1台端末でインターネット検索し、アイデアを広げられるようにする。 ◇ 材料を複数用意し自由に選択しながら制作できるようにする。
第2時	● 作品の主題を設定する。 ・ 前時に制作した立体作品の主題（作品名と説明）を考え、独自の世界観を整理する。 ● 撮影練習（学校敷地内） ・ 撮影場所を考えながら一人1台端末で作品を撮影し、相互鑑賞をする。 ● 立体制作② ・ 自分の立体作品をよりよくできる部分を見付け、完成させる。	【主題設定の動機付け】 ◇ ワークシートを学習用タブレットで制作し、互いの制作を共有できるようにする。 ◇ 複数人の作品を紹介し、視野を広げる。 ◇ 撮影場所や撮影方法から、表したい世界観が変化してもよいことを伝える。 ◇ 写真作品になることで、見え方や感じ方が変化することへの気づきを促す。 ◇ 材料や立体的な造形に、根拠や意味を感じられよう、個々の生徒に問い掛ける。
第3時・第4時	● 撮影技術を学ぶ。 ・ 一眼レフカメラの使い方と表現方法の講義を受け、撮影技術を身に付ける。 ● 作品を撮影する。（学校敷地内） ● 相互鑑賞をする。 ・ 撮影した作品を複数人紹介する。 ● 改めて作品を撮影する。（学校敷地内） ・ 相互鑑賞を通して自分の写真をよりよくするための工夫点を見付け、再撮影する。 ・ 撮影した写真から1枚を選出する。	【知識・技能の動機付け】 ◇ 一眼レフカメラの機能を確認めながら講義を受け、写真撮影の技術を実感的に理解できるようにする。 ◇ 自分の作品撮影に置き換えながら撮影技術の説明を聞かせ、より自分らしい作品撮影をイメージできるようにする。 ◇ 撮影練習を踏まえ、構図・光・ピントなどの専門的な技術を工夫しながら撮影させる。 【主題設定の動機付け】 ◇ 撮影を繰り返していく中で、より自分らしさを表現できる場所や場面は何かを問い掛け、追求できるようにする。
第5時	● 写真作品に最終的な主題を設定する。 ・ 構図やアングルに込めた意味や思いを考え、作品に価値を与える。（デジタルワークシート 図3参照） ● 相互鑑賞をする。 ● まとめ	【言語活動の動機付け】 ◇ 自分にはない友達の作品の個性を発見させ、造形的な視点から見付けた工夫やよさを鑑賞シートに記入させる。 ◇ 自分の制作を振り返り、独自の世界のイメージを実体化できたかを考えさせる。



図3 生徒のデジタルワークシートより一部を抜粋

キ 生徒の様子

第1時	 	- 自分を表す立体制作をするために、材料や用具を自己の表現に合わせて選びながら作品を表現した。 - 素材のもつ質感や形を自分の気持ちに当てはめながら、意味をもたせた。
第2時	 	- 光の向きや構図を工夫して、独自の世界観を表現できる方法を考えた。 - 自身が制作した作品を写真により表現することで、作品の見え方や感じ方が変化することに気付いた。
第3・4時	 	- 一眼レフカメラの専門的な撮影技術を学び、写真表現のよさに気付き、表現の可能性を広げた。 - 撮影を繰り返していく中で、より自分らしい世界の表現を追求した。
第5時	 	1枚の写真を選択し、最終的に表現しようとした主題を見つめ直した。 - 相互鑑賞を通し、造形的な視点に基づき発見した工夫やよさを共有した。

ク 検証授業①の成果と課題

	成 果	課 題
自ら作品の主題を見いだす力	主題を決めて制作するのではなく、制作しながら主題を考えられるようにすることにより、自分らしさを追求させることができた。	自己の表したい主題を見いだす過程で、自分の思いを見つめたり、思いの変化に気付いたりできるよう、毎時間の自分の表現を振り返られるようにする。
創意工夫し、表現方法を追求する力	材料や技法を自分なりに工夫し、自由に表現できる環境があることで、制作に創意工夫を込めることができた。	立体制作の材料の種類を更に充実させ、素材のもつ形・色・質感から、より豊かな発想を引き出せるようにする。
感じたこと・考えたことを言語化する力	学習活動ごとに、制作に対する意図や思いを言語化させ、相互鑑賞を設定することで、表現の可能性を広げることができた。	自身の表現と主題を見つめ直し、整理するための時間が足りない生徒もいたため、十分な時間を確保する。

(2) 検証授業②

ア 授業の概要と研究主題との関連

本題材では、夢や想像、体験、感動等を基にした自己の思い、非現実の世界、抽象的な独自の世界などをジオラマに表現する。身に付けさせたい3つの力の中でも、特に「感じたこと・考えたことを言語化する力」を伸ばすことを重点とし、言語活動への動機付けとして、相互に鑑賞できるようにし、表現の多様性について考察させる機会を設定した。

イ 題材名 「人物のいるジオラマをつくる」～私の大切なワンシーン～

A表現(1)ア、(2)ア、B鑑賞(1)ア、〔共通事項〕

対 象 高等学校 第1学年

ウ 題材の目標

「知識及び技能」に関する目標

- ・ 構成や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。
- ・ 目的や意図に応じて造形素材や描画材料などの特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫、主題を追求して創造的に表す。

「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

- ・ 印象に残っている場面や読書体験等で感じ取ったイメージ、夢、想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練る。
- ・ 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。

「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- ・ 自己の内面を探り、感じ取ったことや考えたことなどを基にした、ジオラマ制作による表現の創造活動に主体的に取り組もうとする。
- ・ 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい大切なワンシーンの特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとする。

エ 評価規準

ア 知識・技能		イ 思考・判断・表現		ウ 主体的に学習に取り組む態度	
知	構成や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。	発	印象に残っている場面や読書体験等で感じ取ったイメージや、夢や想像などから主題を生成し、表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。	態 表	自己の内面を探り、感じ取ったことや考えたことなどを基にした、ジオラマ制作による表現の創造活動に主体的に取り組もうとしている。
	目的や意図に応じて造形素材や描画材料などの特性を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。		鑑 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。		作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表したい大切なワンシーンの特徴や美しさなどについて考え、見方や感じ方を深める鑑賞の創造活動に、主体的に取り組もうとしている。

オ 研究主題に迫る手だて

「感じたこと・考えたことを言語化する力」を伸ばすため、美術室での座席の配置を工夫し、話し合いが生じやすい環境を整えることと、ワークシートに取り組むことにより表現に対する自己の思いをより深めることを意図して、学習を設定した。

(7) 教室環境

- ・ 机を向かい合わせに配置し、4人ずつのグループでの座席を設定する。
- ・ 材料や用具を表現の意図に合わせて選択できるように、美術室内に並べておく。

(イ) ワークシート

- ・ 他者の作品を鑑賞させ、多様な表現の工夫や見方・考え方への気づきを促す。
- ・ 主題設定のために表現に取り組む中で、自分が何を大切にしているのか言語化し、思いを整理できるようにする。

カ 題材の指導計画（全 14 時間）

時	学習内容・学習活動	研究主題との関連 ◇具体的な手だて
第 1 時	1 課題説明及び作品の鑑賞（1 時間） ● 本題材の把握 ・ 紙粘土で彫刻や背景の絵を表現することを知り、活動への見通しをもつ。 ● 参考作品から、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 ・ 作品から感じ取ったことや、作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて考えたことなどから根拠をもって批評する。 ● 参考作品の鑑賞を通して、作品に対する自己の思いや理解を深める。 ・ 主題と表現の関係や意図と表現の工夫などから、造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。	【主題設定の動機付け】 ◇ 既習の経験等を踏まえた取り組みやすい材料を選定する。 ◇ 対話を促しやすい座席の配置にする。 ◇ 一人 1 台端末を活用して参考作品を提示することにより、生徒の興味・関心に応じて鑑賞できるようにする。 ◇ スライド資料により学習の流れを紹介し、活動の見通しをもてるようにする。 ◇ 参考作品を鑑賞して考えたことや感じたことを言語化するためのワークシートを用意する。
第 2 ・ 3 時	2 発想や構想（2 時間） ● 主題を生成する。 ・ 自己の内面を見つめ、感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成する。 ・ 自己を表すためのポーズや背景、構図などを考え、表し方の構想を練る。	【主題設定の動機付け】 ◇ 自己の作品の主題を表そうと思った理由について、ワークシートを活用し、言語化できるようにする。 ◇ 制作上の条件を生徒の思いに合わせて柔軟に設定し、より多様な表現を生み出しやすくする。
第 4 時 ～ 第 12 時	3 制作（9 時間） ● 発想や構想をしたことを基に創造的に表す。 ・ 主題を追求して創造的に表す。 ・ 制作途中に相互鑑賞し、自他の作品の意図を言語化することにより、表したいものを明確にしながら表現する。 ● 完成した作品に自分のオリジナルタイトルをつける。	【知識・技能の動機付け】 ◇ 主要な材料である紙粘土以外の材料の使い方のアイデアを共有する。 ◇ 生徒の思いに合わせて、全体や細部など、多様な視点を伝えながら、よりイメージに合わせた表現を追求できるようにする。 ◇ 生徒の進捗状況に応じて、完成までの見通しを確認できるようにする。
第 13 ・ 14 時	4 鑑賞（2 時間） ● 互いの作品を鑑賞し、見方や感じ方を深める。 ・ 互いの作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことなどから根拠をもって批評し合う。 ・ 互いの完成作品を鑑賞し、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて、表現の学習活動で学んだことを関連させて考え、見方や感じ方を深める。	【言語活動の動機付け】 ◇ 作品裏面に制作者本人による簡易説明文を添付することにより、他者の作品への理解を深められるようにする。 ◇ 相互発表会を開催し、作品に込めた思いを言語化したり、多様な見方や考え方に気付いたりできるようにする。

キ 生徒の様子

第1時			本題材の学習や活動の流れなどを紹介するスライドを見ながら、本題材の学習に見通しをもっている。
第2・3時			参考作品を鑑賞し、作者の心情や意図について想像しながら感じたことをワークシートに記入するとともに、自己の表現活動に向け、作品に表したいイメージを広げていた。
第4時 ～ 12時			4人グループとなるよう座席を配置し、互いの作品や活動を絶えず共有できる環境にすることで、相互にアドバイスをしながら制作していた。
第13・14時			自己の活動や作品への思いを振り返りながら、作品裏面に、タイトルと説明文を記入した。鑑賞会を行い、造形的な視点に基づいて、お互いの作品のよいと感じたところを意見し合った。

ク 検証授業②の成果と課題

	成果	課題
自ら作品の主題を見いだす力	「私の大切なワンシーン」というサブタイトルを設定することにより、自己の思いをどのように表現するかについて、イメージの醸成を促すことができた。	技能面の不安から表現することを躊躇する生徒がいた。イメージを具現化するための表現方法については、より個々の生徒の実態に合わせた提案をする必要がある。
創意工夫し、表現方法を追求する力	主な材料である紙粘土に加え、表現の意図に応じた多様な材料を取り入れることにより、表現の幅を広げることができた。	部分的に完成した後で、質の上げ方について教師から伝えることがあった。今後は、より効果的な表現方法について生徒自身が考えられるよう活動を工夫する。
感じたこと・考えたことを言語化する力	ワークシートを用いて自分の表現を言語化することにより、表現の意図がより明確になった。 座席を4人組にしたことで、アドバイスしやすい状況になり、新たな気づきを促すことにつながった。	紙のワークシートは、記録を見返す際に活動の変遷が捉えにくかった。今後は、デジタルを活用し改善する。 個人で所有するスケッチブックを活用できるようにした方が、いくつも案を描くことができ、効果的だった。

(3) 検証授業③

ア 授業の概要と研究主題との関連

本題材では、形や色彩の造形的な美しさや面白さを発見し、抽象作品として表現する。3つの力の中でも特に「創意工夫し、表現方法を追求する力」を伸ばすことを重点とし、知識・技能の動機付けとして、小学校図画工作科の「造形遊び」の授業展開を取り入れ、用具・材料を工夫して独創的な表現方法が追求できる授業づくりを目指した。

イ 題材名 「新たな表現を求めて」～抽象表現～

A表現（１）ア、（２）ア、B鑑賞（１）ア、〔共通事項〕

対 象 中学校第２学年

ウ 題材の目標

「知識及び技能」に関する目標

- ・ 形や色彩、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解する。
- ・ 表現方法や材料をその特性を生かして意図に応じて選び、自分の表現方法を追求して創造的に表わす。

「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

- ・ 表現方法や材料を試しながら感じ取ったことを基に主題を生み出し、表現方法や材料の組合せを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。
- ・ 造形的なよさや美しさを感じとり、作者が表現したいことと材料や表現方法とのつながりについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。

「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

- ・ 表現方法や材料を試しながら表現する活動に主体的に取り組み、創造活動の喜びを味わい、表現の活動に取り組もうとする。
- ・ 作者の心情や表現の意図を考える活動に主体的に取り組み、美術を愛好する心情を深め、鑑賞の活動に取り組もうとする。

エ 評価規準

ア 知識・技能		イ 思考・判断・表現		ウ 主体的に学習に取り組む態度	
知	形や色彩、光などの性質やそれらが感情にもたらす効果や造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。	発	表現方法や材料を試しながら感じ取ったことを基に主題を生み出し、表現方法や材料の組合せを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。	態表	表現方法や材料を試しながら表現したりする活動に主体的に取り組み、創造活動の喜びを味わい、表現の活動に取り組もうとしている。
	表現方法や材料をその特性を生かして意図に応じて選び、自分の表現方法を追求して創造的に表わしている。		鑑 造形的なよさや美しさを感じとり、作者が表現したいことと材料や表現方法とのつながりなどについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。		作者の心情や表現の意図を考える活動に主体的に取り組み、美術を愛好する心情を深め、鑑賞の活動に取り組もうとしている。

オ 研究主題に迫る手だて

「創意工夫し、表現方法を追求する力」を伸ばすため、「技能の動機付け」を中心として、「主題設定の動機付け」「言語活動の動機付け」と相互に関連させながら授業が展開できるように指導の工夫をした。

(ア) 表現方法が選べる環境づくり

既習の材料や用具を一箇所に集め、生徒が自己の表現に合わせて材料を選んだり、用

具を活用したりすることができるようにする。モデリングペーストの質感を変化させることができる砂や草を用意するなど、創意工夫しながら多様な表現に取り組めることを意図して、材料や用具を準備する。材料を眺めたり、友達が使用している様子を見たりして、自分の作品に取り入れ自分らしい表現を追求できるようにする。

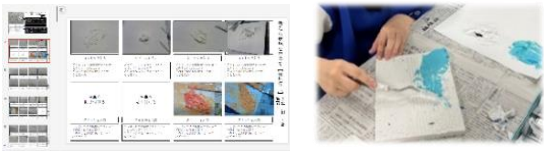
(イ) デジタルポートフォリオの作成

第1・2時の表現探しでは、見付けた表現の写真とその方法を保存し、以降は1時間ごとに写真と活動の中での気づきをデジタルポートフォリオとしてまとめた。個々の生徒が記録したこれらの活動をクラスで共有し、自身の制作の振り返りを行うとともに、他の生徒の取組を参考にしながら制作できるようにした。

カ 題材の指導計画（全9時間）

時	学習内容・学習活動	研究主題との関連 ◇具体的な手だて
第1時	● 鑑賞活動から抽象表現について理解する。 ・ モネの作品を鑑賞し、モネの作品から影響を受けたカンディンスキーの気づきについて考える。 ・ モンドリアンのリンゴの木シリーズから具象から抽象への変化の流れをつかむ。 ・ アクションペインティングの手法について理解する。	【主題設定の動機付け】 ◇ 多様な種類の表現を紹介することにより、生徒の個性に合う表現を探しやすくする。 【言語活動の動機付け】 ◇ 対話型鑑賞により気軽に発言できる環境づくりを行う。
第2・3時	● モデリングペーストを実際に触りながら表現探しを行う。 ・ モデリングペーストを触りながら、新しい、面白いなどと感じる表現を探す。 ・ 見付けた表現の写真を撮影し、デジタルポートフォリオに記録する。	【知識・技能の動機付け】 ◇ 楽しみながら表現を試し、材料や用具の扱いを身に付けられるようにする。 【言語活動の動機付け】 ◇ 題名と説明を付け、形から受ける印象を言語化させる。
第4・5時	● 主題を探し、設定する。 ・ 第2・3時で見付けた表現などから主題について考える。 ・ 自分で使いたい表現と他の表現を組み合わせながら、設定した主題を深める。	【主題設定の動機付け】 ◇ 自分で表現を見付けさせることで、表現したいことを設定しやすくする。 【知識・技能の動機付け】 ◇ 他の表現と組み合わせ、表現の可能性を広げるよう促す。
第6時～8時	● 設定した主題に向け、表現を追求する。 ・ 様々な材料や用具を試しながら、自分が設定した主題をより深めるため、自分の意図に合う表現方法を追求する。	【知識・技能の動機付け】 ◇ 表現の意図に合わせて材料を選べる環境をつくる。 【言語活動の動機付け】 ◇ 主題は何か、どのように表現したいか等を机間指導で問い掛ける。
第9時	● 振り返りと展示の準備を行う。 ・ 制作を振り返り、主題や表現の意図を説明するキャプションを作成する。 ・ 作品情報がない状態で作者の意図を考察した後、作者の意図を説明して再び話し合い、見方や感じ方を深める。	【言語活動の動機付け】 ◇ キャプションを作成し、主題や表現の意図を自分なりの言葉で説明できるようにする。 ◇ 自分たちの考察と作者の解説を比較して鑑賞することにより、自己の思いを更に広げたり、深めたりできるようにする。

キ 生徒の様子

第1時		・ モンドリアンの作品の変化に対し、前半は相違点探しをするように、後半は共通点探しをするように取り組んでいた。 ・ アクションペインティングの動画に対しては、身体全体を使った表現や作者の真剣な表情への関心が高かった。
第2・3時		・ 初めて扱う材料であるモデリングペーストに対して最初は控えめに使用し始めた。塗り重ねたり削ったりして、凹凸を表現することのできるモデリングペーストの特徴を確かめながら、次第に用具や材料を工夫して塗り方を試すなどして、夢中になって取り組む姿が見られた。
第4・5時		・ モデリングペーストに砂や絵の具を混ぜ、質感や色合いを変更するなどして、表現を試しながら主題を見付けたり、深めたりしようとしていた。 ・ 初めて扱う材料や方法を用いている作品を鑑賞し、作者や教師に進んで質問するなど、主体的に取り組む様子が見られた。
第6～8時		・ 互いの作品や活動している様子を見て教え合ったり、影響を受け合ったりすることで、第4・5時に比べて使用する材料が増え、表現の幅が広がった。 ・ 記録写真の撮影方法などについてもこだわりをもって取り組む生徒が見られた。
第9時		・ 自分たちの考察と作者の解説を比較し、自己の思いを更に広げたり、深めたりして見方・感じ方を広げていた。 ・ 自分の作品への他者の考察から自分の作品が抽象化できているか改めて考えることができた。

ク 検証授業③の成果と課題

	成果	課題
自ら作品の主題を見いだす力	事前に材料に触れ表現探しをしたことで、主題を生み出すことが難しい生徒も「この表現方法を使いたい。」「○○みたいに見えるから○○を主題にしよう。」など実際に見た色や形、イメージを基に主題を設定することができた。	ワークシートにアイデアスケッチ等を行うことなく進めていくため、生徒が主題設定を行えているか教師が聞き取っていく必要がある。今後、デジタルポートフォリオの記入事項を改善していく必要がある。
創意工夫し、表現方法を追求する力	材料の選択肢を増やしたことで、楽しみながら材料を試したり、比較したりして選ぶなど試行錯誤する姿が見られた。 第1学年で扱いを身に付けた材料や技法を活用する生徒も多く、学びのつながりをもたせることができた。	表現したいことや取り組みたいことが明確になるにつれ、抽象的だった作品が具象に近付いていく傾向が見られた。「具象と抽象の組み合わせを認める」「形の面白さや色の美しさに、より意識的に視点を置く」「主題を具象のないものに限定する」など、生徒の実態に応じて題材設定を変化させることも検討する。

感じたこと・考えたことを言語化する力	新たな表現を探すという設定にしたことにより、見慣れない表現や材料を使用している生徒に周囲が関心を寄せ、意見を言い合ったり、教え合ったりといったコミュニケーションが自然と生まれた。	材料を豊富にしたことで、個々の生徒への技能指導の時間が増えた。これにより、生徒同士のコミュニケーションの観察や記録があまり行えなかった。よい発言を取り上げて生徒に共有したり、評価に役立てたりする方法を考えていく。
--------------------	---	--

VI 研究の成果と課題

1 成果

事後調査にて、事前調査と同じ質問をしたところ、すべての質問において「当てはまる」「やや当てはまる」を合わせた肯定的な回答の数値が増加した。また、3つの力については、具体的に以下のような生徒の姿を捉えることができた。

(1) 「自ら作品の主題を見いだす力」に関して

- 表現方法の選択肢を増やし、多様な表現ができる題材を設定することにより、生徒自らが表現の可能性を追求しながら表したいイメージを広げていた。
- 制作する過程において、途中で作品の主題を変えるなど、悩んだりやり直したりしながら、「〇〇の面白さを追求した」など、自己の作品の主題を見付けることができていた。

(2) 「創意工夫し、表現方法を追求する力」に関して

- 独創的な表現に対応できる材料・用具を準備し、学習への興味・関心を高めることにより、生徒が創意工夫し、表現方法を追求することにつながった。
- 写真や動画、デジタル機器を活用した制作過程の記録により、生徒は、計画的に構想を練ることができ、見通しをもちながら自分なりの表現方法を追求することができた。

(3) 「感じたこと・考えたことを言語化する力」に関して

- 相互鑑賞を取り入れるなど、言語活動の設定の工夫により、生徒が自己の思いを見つめたり、他者のアイデアを取り入れたりして、自他の表現に新たな意味や価値を見だし、「もっと〇〇したい」など、自分の表現をよりよくしようという意欲を高めていた。
- 発想・構想時や制作時における話合いのタイミングや座席配置など、言語活動の設定を工夫することにより、「表現したいことを見付けることができた」などの声が挙がった。

2 課題

活動において、生徒が自己の表現活動と造形的な視点とのつながりを捉えているにも関わらず、表現に生かし切れていない場面が見られた。造形を豊かに捉える視点については、他者の作品から表現の意図を感じ取ったり、自分の作品を見つめ直したりする場面を設定しながら、引き続き指導を工夫していく必要がある。

また、事後調査では「5 自分のアイデアを整理したり、考えをまとめたりする際などに、自分の思いや考えを言葉や図で表している。」との質問に対し、中学校では第3学年と比較すると第1・2学年で肯定的な回答が低くなっていた。今後は、言語活動の一層の充実に向け、生徒の発達の段階に応じてワークシートの項目を工夫するとともに、ポートフォリオを活用した言語活動など、学習のねらいに応じて設定する必要がある。

これらについては、本研究の課題として、引き続き指導の改善に取り組んでいく。

令和6年度 教育研究員名簿

中高合同・美術

学 校 名	職 名	氏 名
台 東 区 立 駒 形 中 学 校	主任教諭	玉 井 かおり
江 東 区 立 辰 巳 中 学 校	主任教諭	高 澤 健太郎
大 田 区 立 東 調 布 中 学 校	主任教諭	梶 田 玲 子
世 田 谷 区 立 砧 南 中 学 校	主任教諭	清 水 健 次
世 田 谷 区 立 梅 丘 中 学 校	主任教諭	◎岩 崎 恵
江 戸 川 区 立 春 江 中 学 校	主任教諭	伊 達 彩 恵
国 分 寺 市 立 第 一 中 学 校	主任教諭	小 林 奈 央
東 京 都 立 文 京 高 等 学 校	主任教諭	渡 邊 大 作

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター

指導主事 古賀 愛

令和 6 年度
教育研究員研究報告書
中高合同・美術

令和 7 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320—6849